

『 我らのマグナカルタ 』

日本赤十字放射線技師会 会長 益 井 謙

竹富島は、沖縄県、八重山諸島。石垣島の南西 6.3 km。東方には台湾が望める景勝の地。亜熱帯のサンゴ礁に囲まれた島。その岬に一本の立札が、島の意思を伝えるように立っている。『竹富憲章』である。我が国最南端から発せられているマグナカルタである。

曰く『1. 売らない 2. 汚さない 3. 乱さない 4. 壊さない 5. 生かす』。島を守る住民の意思である。島を守り抜く気概が込められている。島への情念と愛着に血肉をつけた島民自身の憲章である。

人間の生命と尊厳を尊ぶ、日本赤十字社の理念に通じる覚悟でもある。博愛と人道の憲章を果たすため施すため、それぞれの施設の会員は、自らの座標を守る覚悟を強いられている。

曰く、愛する病院を、職場をむざむざ『身売りしない』、赤十字の名を『汚さない』、天変地異などによる災害への医療を『乱さない』、医療チームワークを『壊さない』、赤十字の人的資源を『生かす』。

日本赤十字放射線技師会は前期より、これらすべてが混然一体となって、我々赤十字放射線技師のマグナカルタとして、息衝くように、脈打てるように、技術的、精神的支援をしてきた。そして、HP（ホームページ）や技師長 ML（メーリングリスト）などのインフラの整備の第一ステップを終えた。我々のホット・スポットである HP は、我々の活動に協賛し、共同歩調を取るメーカーがバナーとして支援して、その機能を充実する事が可能となった。

これから一年、これらコミュニケーション・アイテムを駆使し、ソフトの充実を図り、分科会活動、日赤医学会など学術分野をエンジンにして、会員の利便性と機動力の活性化を図って行かねばならない。それが、年に一度の「全国赤十字病（産）院診療放射線技師業務研修会」を自立能動的な「全国赤十字診療放射線技師学術総会」と名実ともに進化させた事にも通じ、また、会員の研究に対して「研究助成金交付事業」に参画し、会員のスキルの正当な評価を公表公認する事に繋がっている。前期就任挨拶『Die Hard(不死鳥伝説)』で、惑星探査機「はやぶさ」の帰還 2010 年 6 月までに、我々の「新生技師会 (Die Hard)」と、支柱である「会員 (地上の星)」の取組みと成果を恥じることなく報告できるよう努めるつもり。と約束をした。

医療情勢は刻々と時代に試練を与えているが、我々は我々のコミュニケーションツールの活用で交流を果たし、それぞれの施設のマグナカルタを堅守出来るように、新チーム（理事会）と共に絆を深め、「はやぶさ」が漆黒の試練の旅を終える、その孤高の単機の凱旋帰還に報いたい。